

第三十四回 国指定名勝梁山園投句会入選作品

季節『春』

期間 令和七年二月一日～令和七年四月三十日

選者 堀越胡流（群馬県現代俳句協会会長）

一般の部

賞	作品	住所	氏名
最優秀賞	なまこ壁残す町並みうららけし	富岡市	野口ちゑ子
【評】	雄川沿いの桜並木を歩くと昔ながらのなまこ壁が目につく。この句、残る町並みではなく、残す町並みとある。町を挙げての先祖の文化遺産を守ろうとする気概が見え、明るく美しい風景が見える。		
優秀賞	パノラマに山笑わせて梁山園	前橋市	江利川ゆかり
【評】	明るい俳句である。「山笑う」という季語は春の新緑に染まつた山の状況を言う。借景となる山々を、また見渡す限りの連山を緑に染めて笑わせているのは梁山園であるという面白い発想である。		
優秀賞	水音に心静まる梅の茶屋	前橋市	中山 祐子
【評】	梅の茶屋で一服している。小幡の町中を縦横に引き入れた雄川のせせらぎが聞こえてきたのであろう。また、町中を散策した時の雄川の音が耳に残っていたのかも知れない。心静まる至福の時でしょう。		
優秀賞	ほとけのざすみれたんぼ雄川沿い	甘楽町	茂原千恵子
【評】	大変リズムがよく、気持ちがよくてうきうきするような句です。甘楽の里を表現するのに、このような表記で余すことなく表現するとは、大変な技巧であると同時に当地に生活している人でなければ詠えないであろう。		
入選	春まけて色移りゆく梁山園	東京都 足立区	井ノ上花菜
入選	友人と今昔結ぶ春一番	みどり市	澤松 多奈
入選	春ならば梁山園の茶会かな	安中市	鬼形 瑞枝
入選	武家屋敷池の水面に梅の花	藤岡市	神山 悟
入選	山笑ふ少し前なり鯉はねる	長野県 軽井沢町	山口こさち
入選	淡雪や榮枯を語る織田の墓	富岡市	古田 政子

こどもの部

賞	作品	住所	氏名
特別賞	ひなまつりにんぎょううつぱいかわいいな	藤岡市	松島 令奈
特別賞	美しき春景表す言葉なく	所沢市	萩原 小鈴
特別賞	のぶかつと思いかさねる梅の茶屋	東京都 練馬区	藪田 伸克